

入試 Information (定員:150名)

滋賀大学データサイエンス学部では、以下の通り学生募集を行います。なお、入学者選抜方法は各選抜の「学生募集要項」が確定情報となります。出願に当たっては必ず令和8年度入学者選抜用の「学生募集要項」を確認してください。

一般選抜 (定員:110名)

前期日程と後期日程のそれぞれで学生募集を行います。さらに、後期日程では、「個別学力検査型」と「面接型」の2区分に分けて募集します。

日程	区分	定員	
前期日程	—	70名	
後期日程	個別学力検査型	30名	40名
	面接型	10名	

▶ 前期日程・後期日程 (個別学力検査型)

右の通り実施します。大学入学共通テストの利用教科・科目や、個別学力検査の出題範囲は学生募集要項を確認してください。

区分	大学入学共通テスト	個別学力検査		計
	6教科8科目 (7教科8科目)	英語	数学	
前期日程	1,000点	300点	300点	1,600点
後期日程 (個別学力検査型)	1,000点	500点	500点	2,000点

▶ 後期日程 (面接型)

大学入学共通テスト (国語、数学、外国語の3教科4科目) の得点による第1段階選抜合格者に対し、オンラインでの面接試験を課します。詳細は学生募集要項を確認してください。

総合型選抜 (定員:40名)

右の通り募集します。なお、総合型選抜IIでは、最終選考として大学入学共通テストを課します。

※総合型選抜では、本学が定める資格・検定の合格者に対し30点を上限に加点します。対象の資格は学生募集要項を参照してください。

区分	定員		概要
総合型選抜Ⅰ	オンライン講座受講型	一般枠:20名 女子枠:20名	本学部がWeb配信するMOOC教材の視聴を必須とする選抜
総合型選抜Ⅱ	実績評価型	若干名	全国規模で開催されるデータ分析やプログラミングに関するコンペティション等への参加経験者を対象とした選抜

3年次編入学試験

高等専門学校卒業 (見込) 者を対象に、3年次編入学試験を実施します。

「学生募集要項」公開予定時期

▶ 一般選抜 11月 ▶ 総合型選抜 7月

滋賀大学ホームページ
「大学案内・学生募集要項」



交通アクセス／彦根キャンパス

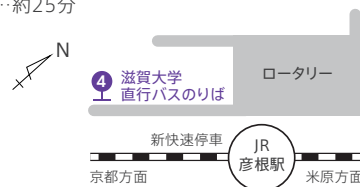
■ 電車でお越しの方

JR琵琶湖線 (東海道本線) 彦根駅西口より、次のバス等にご乗車ください。

◎ 滋賀大学直行バス…約10分／100円
(土、日、祝日、夏季一斉休業期間、年末年始は運休。
入学試験実施日は臨時ダイヤで運行)

◎ タクシー…約5分／1000円程度

◎ 徒歩…約25分



国立大学法人 滋賀大学 データサイエンス学部事務室

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場一丁目1番1号 TEL : 0749-27-1045 FAX : 0749-27-1132

ホームページ

www.ds.shiga-u.ac.jp

2025年度
入試より
募集人数が増加
100名 → 150名

Faculty of Data Science

データサイエンス学部
2026年

滋賀大学
SHIGA UNIVERSITY

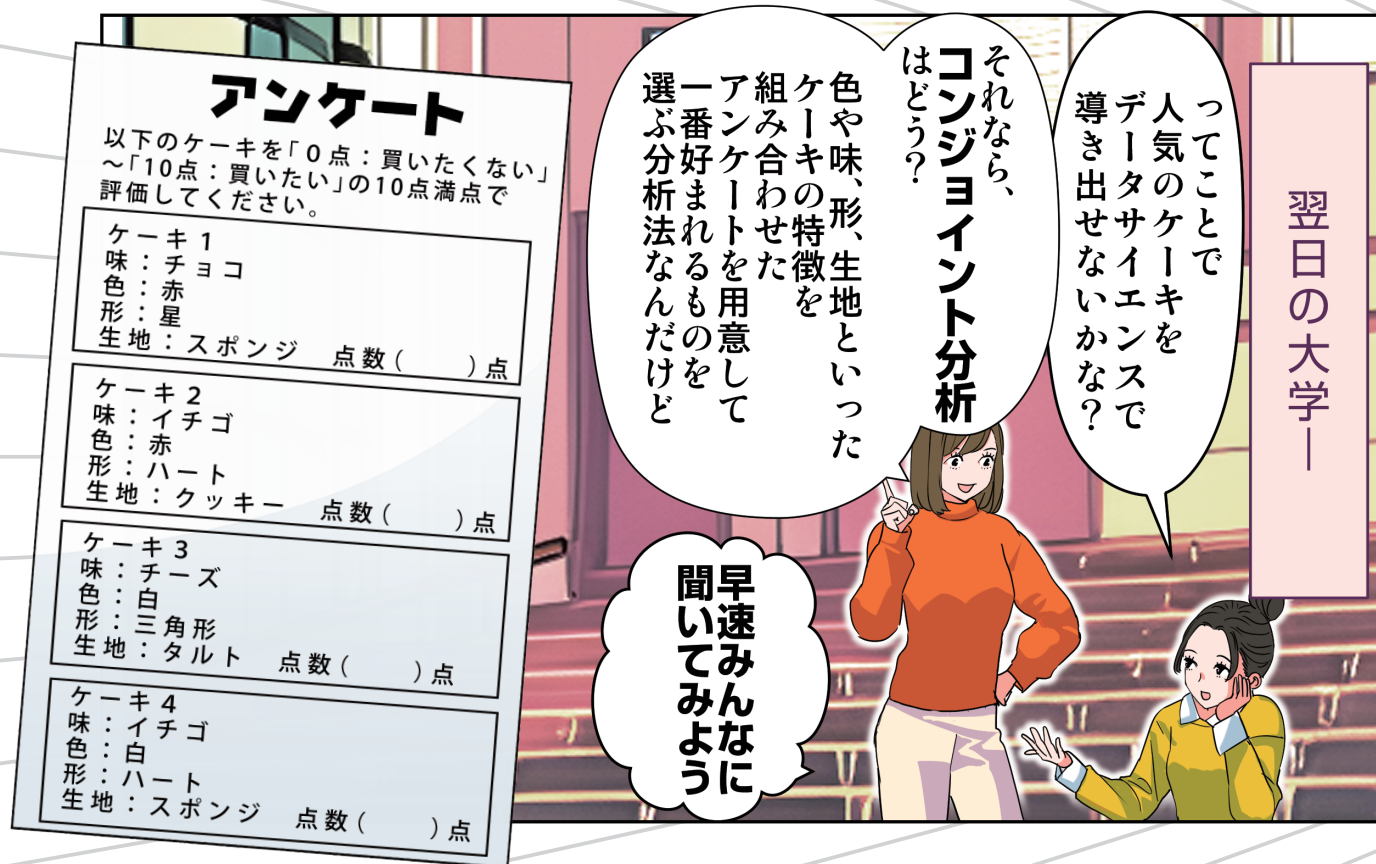
データサイエンスで

世界はこう変わる！



何を重視して選択するか
点数で見える化！

コンジョイント分析は、商品の「味」「色」「形」など複数の特徴(属性)を組み合わせ評価してもらい、どの特徴がどれだけ人の好みに影響しているかを調べる方法です。例えば、今回のケーキ屋さんの場合、「イチゴ味で白いタルトのケーキ」が人気かどうかを、点数などで評価してもらいます。これにより、人々がどのような特徴を重視して商品を選んでいるかがわかります。この方法は、商品開発や社会調査など、いろいろな分野で使われています。



あらゆる分野で今、データサイエンスが
必要とされている!!



**DATA
SCIENCE**

情報通信技術の発達により、世の中の膨大な情報は日々インターネットに蓄積され、ビッグデータとなっています。このビッグデータとさまざまなデータを対象とする学問がデータサイエンス。現在、データサイエンスは国際競争力の源と考えられており、ビッグデータの利活用による新たな価値創造とその無限の可能性に、世界中が期待を寄せています。

データサイエンスが活用されているのは、もちろん食品会社だけではなく。スポーツ、ビジネスなどあらゆる業界への応用が今後ますます広がっていくと考えられています。ではどんな例があるのでしょうか。QRコードからマンガ＆解説を要チェック！

くわしくは
コチラ！
先生の解説あり！



STUDENTS' VOICES

私たちがデータサイエンスを選んだ理由。



専門性の高いカリキュラムで
最先端の分野を学ぶ日々。

亦賀 由宇太さん
4年 海城高校(東京都)



日本におけるデータサイエンスは、諸外国と比べてその活用が遅れているのが現状です。そんな最先端の分野に自分自身が飛び込んで、少しでも社会に貢献したいと、この分野を選びました。私は埼玉県出身ですが、“日本初のデータサイエンス学部”というのは、滋賀大学を選ぶ大きな決め手となりました。実際に入学して、専門性が高い教育内容だと実感しています。また、彦根キャンパスは経済学部とデータサイエンス学部しかない小規模キャンパスのため、学生同士や先生方との距離が近いことは、滋賀大学に入って良かったと感じることの一つ。彦根の住みやすさも気に入っています。

データサイエンスを軸に
興味を持てる分野を見つける。

永嶋 あけみさん
3年 静岡高校(静岡県)



高校時代は文系を選択していましたが、受験勉強をする中で数学が好きになったことと、将来の方向性が定まっていなかったため、データサイエンスに注目しました。データサイエンスの知識は広く社会で必要とされているだけでなく、学ぶ中で興味を持てる分野を見つけることで、その知識を活用できると思ったのです。滋賀大学を選んだのは日本初の学部で、実績や先輩方とのつながりがあり、学ぶ環境が整っていると感じたから。実際、琵琶湖に吹く風を分析する自主ゼミで先輩の分析に触れたことで、めざす分析手法が見つかったり、気になる分野の専門の先生から話を聞く機会をいただいたりと充実しています。



興味があった経済学を
データサイエンスで社会に活かす。

渡邊 紗也さん
4年 品川女子学院高等部(東京都)



進学にあたって経済学や心理学を学びたいと考えましたが、その知識を社会で活かせない意味がない。でも、データサイエンスを通じてなら可能性が広がること、そして滋賀大学は経済学に強いことに惹かれました。いわゆる理系の科目が多いですが、文系出身の私の印象では、そこまで不安になるほど難しくない気がします。どの科目も楽しく、数学や統計学は文系学部に進んでいたら、ここまで深く学べなかったと思います。わからないことはまずは自分で調べますが、それでも解決できないときは先生に質問すると丁寧に教えていただけるだけでなく、ときに一緒に考えてくださる環境なのありがたいです。



実践につながる学びを
主体的に行えることが魅力。

小田 裕明さん
2年 高松中央高校(香川県)



高校時代は心理学や医療など多方面に興味を持っており、データサイエンスならさまざまな分野に携われることから、日本初のデータサイエンス学部として実績がある滋賀大学を選びました。入学後は、理論に加えて企業データの分析をグループで行ったり、データの活用事例を調べたり、自主ゼミに参加したりと、実践につながる学びを主体的に行えることが魅力だと感じています。文系科目で受験したため、入学後に数学IIIの勉強をすることになりましたが、同級生に教えてもらったほか、大学の手厚いサポートで乗り越えることができました。



| DATA |



理系出身者 70%
文系出身者 30%

文理融合を掲げる本学部では、理系出身者が多いものの、約7:3の割合で在籍しており、教員が苦手分野をフォローする体制も整っています。

Have a Talk



市川 治
データサイエンス学部 学部長
(左から)
谷本 夏海さん
4年 金沢泉丘高校(石川県)
竹内 大和さん
3年 東海大学付属相模学校(神奈川県)
岸 葵唯さん
4年 膳所高校(滋賀県)

日本初のデータサイエンス学部として、 一歩先をゆく学びを

市川 まず3人がデータサイエンス学部(以下、DS学部)に進学した理由を教えてください。

谷本 高校時代から目標としてきたプロ野球のデータアナリストになるために、この学部に応えて進学しました。

岸 私はこれからの社会にデータサイエンスが欠かせないと知り、さらに地元の滋賀大学で学べたことが理由です。高校時代は文系でしたが数学も得意なので、DS学部が掲げる「文理融合」の学びにも惹かれました。

竹内 興味のあったデータサイエンスを軸に進学先を検討する中で、「日本で初めて創設されたDS学部」が決め手になりました。

市川 「日本初」にふさわしい学部であるために、基礎となる科目を大切にす一方、先駆的な学びの体制も整えています。例えば、メディアデザインや人とロボットの共生、音楽へのAI活用など、さまざまな分野の専門教員が在籍し、学べる領域が幅広いことも特長です。3人は授業や実習をどう感じていますか。

岸 線形代数や統計数学といったデータ解析系の科目は難しかったのですが、先生の講義がわかりやすく、小テストなどで学びを積み重ねることで、理解を深めていくことができました。

谷本 もっとも役に立っているのは「データ研磨」の実習です。データを分析可能な形式に整える作業なのですが、その際、R言語というプログラミング言語を用います。R言語はプロセスが複雑なため、考え、自分の手を動かして作業をしたことで、高度なプログラミングのスキルと知識が身につきました。

竹内 私はビジネスへのデータの活用方法や事例を学ぶ「ビジネス価値創造論」が印象に残っています。受講したことで視野が広がり、現在の学びや活動のベースになっています。

市川 DS学部は創設時からビジネスをはじめとする産学連携にも注力しています。提携先は300件を越え、共同研究も進行中です。提携企業の実データを扱う実習も多くあります。

岸 私は大阪ガスのデータを用いて、ガス機器などの異常検知に関する分析を行いました。

市川 課外活動には取り組んでいますか。

谷本 私は滋賀大学硬式野球部のアナリストを務めています。並行して、自らコンタクトをとって学外のスポーツアナリストチームに所属し、野球のワールドカップに出場した侍ジャパンU-23代表に帯同しました。

竹内 私は学生アナリストとして活動し、農業に関心があることから貸し農園のWeb管理を担う会社を起業しました。ほか、滋賀大学の連携企業とのスタートアップも進行中です。

AIの原理を理解し、 新たな社会活用の形を模索

市川 卒業研究のテーマを教えてください。

竹内 Web上ではなく、現実空間で身体性を持って活動する

「エンボディッドAI」です。AIへの学習を仮想空間で行い、その後、実世界に転移する方法を追求しています。

谷本 野球の投球動画から、軌跡や回転数などをAIでデータ化し、さらに3D化したものをVRで視聴するシステムを開発中です。動画はスポーツ専用カメラではなく、スマートフォンで撮影したのを使い、一般に活用できるものになればと考えています。

岸 私はYouTubeのサムネイル画像に注目しました。サムネイル画像に使われた人の表情や目線などを分析し、再生回数の上昇に効果的な画像を自動生成するAIを新たに構築しています。

市川 研究においてもAIは欠かせないものになっていますね。その中でChatGPTをはじめとする生成AIは社会でも広く使われていますが、活用していますか？ 滋賀大学は生成AIの使用を一律禁止にしておらず、DS学部でも生成AIの構造と適切に活用するための講義もいち早く開講しています。

竹内 生成AIを単に使うより生成プロセスに関心があります。生成AIのデータ学習において有用なデータを抽出する際、人間の感情の深層まで取り出せないか、研究の中で取り組んでいます。

谷本 生成AIを使うには自分の知識が欠かせないと思います。生成AIでプログラミングもできますが、DS学部の学生はゼロからコードを書くスキルと知識を身につけているので、生成AIが提示するコードの善し悪しを判断することができます。ただ知識がないと、そのまま使用しているケースもあるようで、少々心配です。
岸 私はプログラム言語のPythonを使って、画像認証を突破するグループワークに取り組んだことがあります。画像を生成するAIの精度が上がるほど、認証で悪用される可能性も高まるので、最終的には人による対応が必要なことを実感しました。

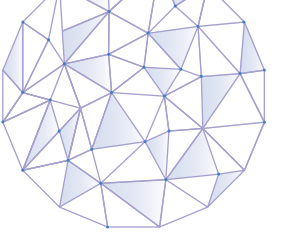
市川 3人とも生成AIに対する意識をしっかり持っていることに安心しました。DS学部の教員も学生も生成AIを使う側にとどまらず、生成AIの原理や構造を深く理解し、新たな技術や価値を生み出していく側にあります。だからこそ、今後も進化していく生成AIを超えていくためにも、DS学部では講義や実習をさらに充実させています。最後に今後の目標を教えてください。

竹内 私は大学院に進学します。将来については検討中ですが、モノづくりに関わりたいと考えています。

岸 私は金融業界に進み、システム設計やセキュリティ強化といったデータ活用の上流工程に携わっていく予定です。

谷本 私はプロ野球の球団にアナリストとして採用されることが決まりました。夢が叶って本当にうれしいです。

市川 活躍の場もそれぞれですね。現在は、社会においてデータやAIの活用が広く浸透し始めた段階だと思います。次に迎えるのは、多様な分野で専門的な知識とともにデータを自在に使いこなす段階です。DS学部では、この発展的な社会でも活躍できるよう力を養うための学びの場を提供しています。理系・文系を問わず、幅広い分野に関心を持つ学生にこそ、DS学部で常に新しく実践的なデータサイエンスの世界に触れ、学んでほしいと考えています。



膨大なデータから未来を変える 〈価値〉を見出そう。

社会に溢れるデータを読み解き、有益な価値を見出すのがデータサイエンス。
基礎となるのは高度なデータを処理するための情報学およびデータを分析するための統計学です。
本学部ではこれらの手法に加え、AI・経済学・経営学などの基礎知識やコミュニケーションスキルなどを学び、
さまざまな領域に応用してイノベーションを起こす力を備えた文理融合型の人材を育成します。

学部の特徴

データサイエンスに特化した 日本初の学部。

本学部は、2017年4月に設置された日本初の本格的なデータサイエンス学部です。最先端の情報技術、高度な統計手法といったスキルのほか、経済、経営等の文系の授業もあり、幅広い能力を身につけることができます。

データサイエンスに関連する 充実の教授陣。

情報学、統計学の教員をはじめ、医学、社会学分野で活躍してきた教員、公的機関や企業での豊富な実務経験者による多彩な教育を実施しています。ビジネス分野の第一線で活躍をしている方々の話を聞くことができる講義も行っています。

多彩な企業との連携と 教育へのフィードバック。

多くの公的機関や企業がデータサイエンスを活用し、今後の発展を模索し続けています。本学部では多数の企業連携を行っており、最新技術や各分野の課題を学生にフィードバック。リアルタイムに知識を身につけ、将来へつなげます。

取得できる・めざせる資格

所定の単位を取得することにより、社会調査士とSAS Academic Specializationの資格を取得できます。また、情報処理技術者試験（基本情報技術者試験、応用情報技術者試験）、統計検定（準1級、2級）、品質管理検定（2級）の合格をめざしたカリキュラムです。

社会調査士

SAS Academic Specialization

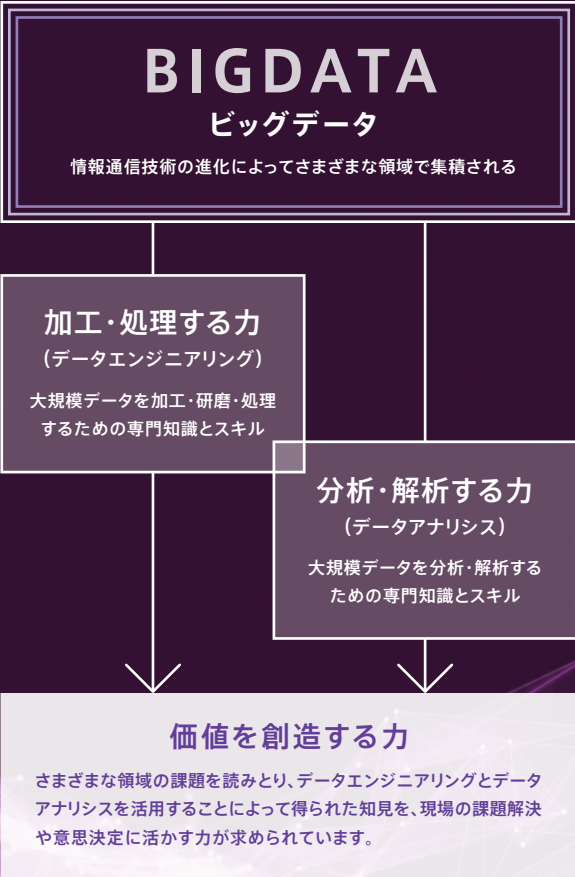
情報処理技術者

統計検定

品質管理検定

3年次進級時のコース配属でより専門性を深めます

2025年度入学生より、3年次進級時に「データサイエンスコース」「AIイノベーションコース」のいずれかのコースへ配属されます。講義の選択科目はコースによる推奨はありますが、履修上の制限はありません。



- データサイエンスコース

統計分析、ビジネス価値創造、情報一般、機械学習、IoT、プログラミング、調査、シミュレーション、数理解析、因果分析など、データサイエンスの幅広い領域が該当します。
- AIイノベーションコース

AI（人工知能）の活用を中心に、画像、テキスト、音声、マテリアルといった非構造型データの深層学習などのほか、音楽や絵画といったアート領域のデータサイエンスも含みます。

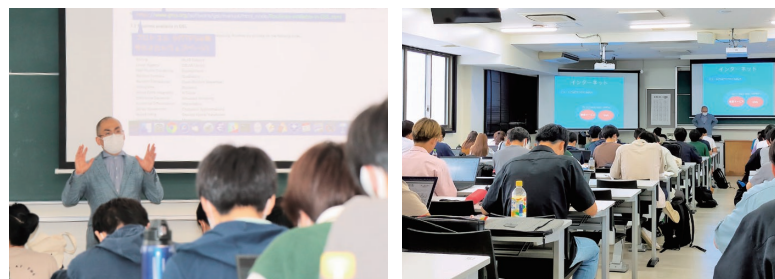
Curriculum

※講義+演習がある科目
※紫色の文字は必修科目
※黒色の文字は選択科目

1年次		2年次		3年次		4年次	
データサイエンスの基礎を総合的に身につける。		実践的なデータ解析や処理のスキルを磨く。		実データを使った演習で問題解決力を培う。		企業との共同プロジェクトに参加し卒業研究を行う。	
1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター
大学入門科目	データサイエンス入門						
データ駆動型PBL演習		データサイエンス入門演習		データサイエンス応用演習	データサイエンス実践価値創造演習Ⅰ・Ⅱ	データサイエンス上級実践価値創造演習Ⅰ・Ⅱ	
価値創造基礎・応用科目	プレゼンテーション論	データサイエンス実践論	価値創造方法論 AI・情報倫理	データ研磨 気象データ入門	ビジネス価値創造論 価値創造各論(3単位) マーケティング 医療統計 社会分析 心理分析 画像処理 音声データと対話システム バイオインフォマティクス 人工知能 生物・経済データと因果分析 公的統計 価値創造各論(2単位) 保険戦略 ビジネス思考力 環境・交通・都市政策 気候・気象データ分析 防災空間分析 空間計量経済分析	データサイエンス実践特論A データサイエンス実践特論B	データサイエンス実践特論C データサイエンス実践特論D
	経済学部開講科目 [ミクロ経済学A・B、マクロ経済学A・B、簿記会計、経営学、財務会計総論Ⅰ・Ⅱ、財務諸表論Ⅰ・Ⅱ、管理会計総論Ⅰ・Ⅱ、証券分析とポートフォリオマネジメントⅠ・Ⅱ、計量経済学、計量ファイナンス、ビジネスエコノミクスⅡ]						
データエンジニアリング系科目	AI概論 演プログラミング1 計算機利用基礎	データ構造とアルゴリズム 演プログラミング2	マルチメディア処理入門 演プログラミング3	応用数学 データベース ソフトウェア設計 演プログラミング4	情報理論 情報ネットワーク 情報セキュリティ 創薬・化学情報学	データサイエンス特論A データサイエンス特論C 生成AIの理論と活用	
DS基礎・専門科目	基礎データ分析	演解析学 演線形代数 統計学要論	基礎統計活用演習A 統計活用演習A 演統計数学 回帰分析 多変量解析入門	基礎統計活用演習B 統計活用演習B 確率論 実験計画法 テキストマイニング 品質管理 時系列解析入門 AI・機械学習入門	最適化理論 生存時間解析 ベイズ理論 シミュレーション技法 質的データ解析入門 AI・機械学習 ネットワーク分析	データサイエンス特論B データサイエンス特論D 大学院科目先行履修制度 教師あり学習 同実践論 教師なし学習 同実践論	
DS専門科目	調査系科目 調査系科目		標本調査法 社会調査法Ⅰ	社会調査法Ⅱ	社会調査実践演習Ⅰ・Ⅱ	社会調査特論A 社会調査特論B	

※カリキュラムは変更の可能性があります。

Pick up



01 AI概論

日常生活でもよく耳にするAIは、現代社会のあらゆる場面で活用されています。そんなAIや情報科学が扱う分野、基礎を学び、さらに従来の作業がどのように効率化されてきたか、そして今後どのように活かすことができるかを考えます。数や情報の表し方、プログラミング言語、情報倫理など、将来、専門科目を学ぶために必要な内容を網羅した、データサイエンスの入門的な科目です。

📖 授業のココがおもしろい!

AIとは何かを理解したことで
今後の学びが楽しみに。

藤井 倫生さん
4年 山城高校(京都府)

なんとなく理解していたAIや、聞いたことがあるIT用語がどういったものか、そしてそれぞれの用語がどのような関係にあるかを知り、学問として理解することができました。また、学部で学ぶデータサイエンス科目の大枠がわかり、今後の期待が高まった科目です。



03 社会調査実践演習



社会の問題を適切に理解し、分析することが社会調査には求められています。また、学んだ理論や分析手法を元に、調査経験を積むことも大切です。そこで自治体や企業などと連携し、実際に調査を行います。1年間でアンケート調査の方法、回答データの前処理や分析方法などを実践形式で学ぶことができるほか、後半では外部に向けた発表会や報告書の作成などを通して分析の成果を公開します。

📖 授業のココがおもしろい!

調査の一連の流れを
実践で経験できる。

中司 環さん
4年 寛道高校(京都府)

企業や自治体などから依頼された調査分析を行います。目標設定から調査票の作成、発表、レポートの作成と、調査の最初から最後までを通して行うので、各工程の役割を調査を通じて再確認できました。社会調査は個人で行なうことが難しいため、貴重な経験になりました。



02 多変量解析入門

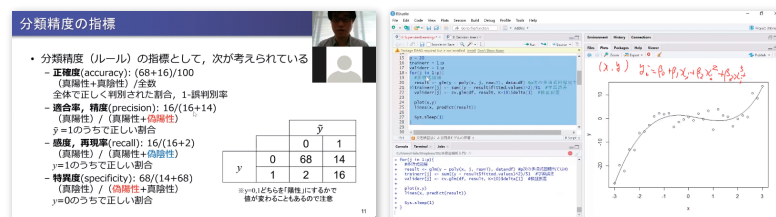
多変量解析とは、ある対象から得られた複数種類のデータを要約したり、予測したりするための方法のことです。手法は分析目的に応じてさまざま、本講義ではその一部を学びます。多変量解析の各手法がどのような目的で、どのようなデータに対して用いられ、どのような結果をもたらすのかについて理解してもらうことが目標です。この講義を通して、データに潜む特徴を自分の力で探し出す力を身につけます。

📖 授業のココがおもしろい!

解釈を考えるのが
難しくも、おもしろい。

上原 教幹さん
3年 沖縄尚学高校(沖縄県)

複数のデータの関連性を分析する手法を学び、データを持つ潜在的な特徴や関係を捉えられるようになりました。分析結果をどのように解釈するかは難しくもあり、おもしろさがあります。将来、データを活用する仕事をするうえで、大きな武器になる科目だと思います。



04 ビジネス価値創造論

データから価値を創出するために最も重要な力は、現場の悩みからビジネス課題を発見し、課題解決のために分析すべきデータを考えることです。講義では通信や航空、鉄道、製造などのビジネス現場でデータサイエンティストとして活躍されている方々を講師に迎え、実際のビジネス事例を元に課題解決に必要なことを学びます。ほかにはない、滋賀大学オリジナルの講義です。

📖 授業のココがおもしろい!

データ活用の実例を知り、
現場視点が身につく。

片岡 純一さん
4年 明星高校(大阪府)

企業で実際にデータを扱っている方から、さまざまな分野における活用実例をお聞きしたことで、データ分析の知識を、どのようにビジネスの現場で使えるようにするか、改めて考えることができました。また、課題発見力や実践的なデータ活用の視点が身についたように感じます。



【データ構造の要約と視覚化】
佐藤 健一 ゼミ

SATO
Kenichi



統計学とR言語を駆使して
現実社会の問題を読み解く。

統計学の中でも、複数の変数の関係を明らかにする多変量解析を中心に学びます。数学的な理論とR言語を用いたコンピュータプログラミングの両方を習得し、データサイエンスを実装します。例えば、滋賀県観光統計調査から主要な周遊ルートを視覚化し、居住地別年代別にその傾向を解析。ほか、滋賀データ活用LABに参加し、約15万人分の健康診断データから生活習慣、食習慣、運動習慣がメタボリックシンドロームに与える影響を定量的に評価しました。さらに、経済学部附属史料館が保有する菅浦文書に収録された約1900点の花押の画像データを用いて、書状の書き手の特定も試んでいます。理論と応用の両輪を磨きながら、現実社会の問題を解決するノウハウを身につけます。

【知的情報処理技術】
飯山 将晃 ゼミ

IYAMA
Masaaki



画像・映像から人や環境を理解し、
人間の活動を支援するシステムを構築。

コンピュータの目を通して世界のさまざまな現象を理解・分析することを目的として、画像処理・画像認識の技術とその産業応用（製造業・気象・一次産業・教育）に関する研究に取り組みます。実際にデータを扱ってみて初めてわかることも多いので、ゼミでは座学だけでなく実際のデータを使ったプログラミング演習を通して知識・技術を学んでいきます。その後、学生の興味に応じて個別の研究テーマを設定し、卒業レポートに向けてディスカッションをしながら研究を進めます。世界でまだ誰も取り組んでいない最先端のテーマを発見し、試行錯誤しながら取り組むことで、社会に出てから必要とされる問題発見能力と解決能力を身につけることができます。

自主ゼミ「びわ湖の風を奏でる」風速計とエオリアンハープで琵琶湖の風を分析

深谷 良治 教授／大塚 道子 准教授

学生の幅広い興味に対応することを目的に、希望者が参加できるゼミ（通称自主ゼミ）を学期ごとに開講。「もののふの 矢橋の舟は速けれど 急がば回れ 瀬田の長橋」という和歌があるように、琵琶湖の湖上には危険が伴います。本ゼミは、湖上交通の安全性向上をめざし、琵琶湖の風のデータ分析から始まりました。学生寮屋上、ヨット部艇庫、ウインドサーフィン部艇庫などに風速計を設置し、データを計測しています。風はまるで息をしているかのように変化します。風を可視化する試みとして、風速計に加え、風が音を奏でる楽器「エオリアンハープ」も活用しています。自らの手で生データを取得・分析することで、何が読み取れるのか、何に活用できるのかを自由に探求します。また、分析には気象の知識も必要となるため、興味に応じて学びを深めることができます。



【ゼミ一覧】

青木 高明	数理地理モデリング・ネットワークの数理	人の流れや地理情報システムなどのデータを活用し、人文・社会科学の課題を解決します。
石川 祐実	健康についての実証分析	家族や職場の中でどのような要因が健康を形成しているのか、健康の増進を支えられる可能性があるのかについて、経済学的手法を用いた実証分析を行います。
和泉 志津恵	医療における実データの特徴を探索する	病気の予防や体調の改善には何が関係しそうなかを予想し、定期健康診断データを用いて調べます。そのデータ解析の結果を医療関係者へフィードバックします。
市川 治	音声・テキストデータの分析と機械学習	音声データとテキストデータの機械学習を中心に、その産業や教育への応用を研究しています。扱うデータは幅広く、レシビデータや音楽データも取り扱います。
今井 貴史	機械学習を用いた時系列データ分析	時系列予測・時系列分類・時系列クラスタリングといった問題に有効な機械学習手法を広く学び、実問題への応用や新たな手法の開発に取り組みます。
岩山 幸治	データサイエンスのための数理モデリング	スポーツ、金融、農業など対象を限定せず、現象を数理的に表現することを通してデータを分析し、対象の理解や予測、意思決定につなげることをめざしています。
梅津 高朗	モバイルコンピューティング・センサーネットワーク	モバイルデバイスやセンサーを使った情報収集や交通データの応用など、ソフトウェアを使った問題解決を行っています。
江崎 剛史	化学分野のデータ分析	化学分野で取得されるデータを使った分析を行います。Pythonやノーコードツールを使って、課題解決に向けて取り組みます。
大塚 道子	気象データ分析	モデルや観測から得た気象データを解析し、災害を起こす極端気象、身近な琵琶湖周辺の気象・波浪、気候の長期変動、社会・経済活動と気象との関係などを調べます。
奥村 太一	能力や人となりを可視化する	国際学力調査などのデータ分析を通じて、教育や心理に関する問いに実証的に答えることをめざします。
川井 明	高度交通システム	英語、発表能力、資料作成能力を磨くために英語記事の輪講をします。交通系中心の実データを扱います。
河本 薫	ビジネスデータサイエンティスト育成ゼミ	製造現場からマーケティング、数値・画像・音響データも扱える、企業が欲するデータサイエンティストになるため、2年間で7つの企業連携PBLに挑みます。
来嶋 秀治	組合せ、確率、計算に関する数理	データサイエンスに現れる組合せ最適化、バンディット問題、ゲーム理論などを題材に、計算効率に関する数学的証明に取り組みます。
佐藤 智和	画像解析・画像合成・AR/VR	画像や映像から実世界情報を抽出するコンピュータビジョンと、抽出されたデータを活用して仮想世界上で情報を可視化するAR/VRについて研究します。
佐藤 正昭	公的データの実践的な利活用	社会に関する多様なデータ（人口や経済活動など）について、さまざまな分析手法を適用しながら、社会課題や人間の活動を考察していきます。
伊達 平和	社会調査を通じて社会・文化を読み解く	アンケートやインタビューによってさまざまな社会問題や社会現象を理解します。主要なテーマに依存症、ジェンダー、LGBTQ、教育格差などがあります。
田中 琢真	機械学習を実践して学び、データを自ら収集する	「退屈な映像って何?」「元気があってどういふこと?」は素朴なのに、答えようとすると難しい問いです。実験と質問紙でデータを集めて分析し答えを探します。
寺口 俊介	“データサイエンティストごっこ”	各ゼミ生が独自のデータ解析プロジェクトを企画し、別のゼミ生がそれを受注し実行するグループワーク(=“データサイエンティストごっこ”)を行っています。
南條 浩輝	自然言語・画像の分析とAI、マルチモーダルAI	テキスト・音声・画像を扱います。また、これらを複数扱うマルチモーダルAIを活用し、主に自然言語を含むデータ(図解文書、講義動画等)から価値を創造します。
姫野 哲人	多変量解析の実践	インターネット調査データ、企業が持つ実データ、POSデータ、コンペティション参加など、実データに実際に触れて課題解決手法を実践により身につけます。
藤井 孝之	時系列データ分析	数理統計学への理解を深め、Rなどのツールを用いて時系列データの分析に取り組みます。
堀 兼大朗	人々の生活様式を理解する	消費行動、娯楽の選択、価値観、日常の悩みなど、人々のライフスタイルに関するさまざまな側面を、アンケート調査を通じて詳細に分析します。
松井 秀俊	データ分析のための統計的モデリング	世の中にあるデータはさまざまな形式を持ち、分析目的も多様です。そのようなデータを分析するための多変量解析や機械学習などの統計的モデリング手法を学びます。
村松 千左子	画像解析・医用画像解析による診断支援	主にディープラーニングを用いて、画像や関連する数値・テキストなどから有用な情報を引き出します。医用画像やデータが入手可能な好きな画像を対象に行います。
山口 崇幸	データサイエンスと数理科学	データ解析に必要な数学をおさえて、感染症数理や最適化などの実データを用いた研究に取り組みます。
義久 智樹	IoT (Internet of Things) データサイエンス	みんながより豊かに暮らせる世界をめざして、スマートフォンなど各種センサーから得られるIoTデータを高速高精度に分析する技術を研究しています。

このほかにも、データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター教員によるゼミ、自主ゼミも開講されます。
詳しいゼミ情報はホームページの各教員ページをご覧ください



さまざまな企業と連携し 実践的な学びが可能に。

滋賀大学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センターでは、
先端的な教育研究活動を行うとともに、企業や公的団体との連携、多様な大学間連携を通じて、
さまざまな分野における新たな価値創造、社会貢献、教育開発を行っています。
センターを通じての結びつきは教育にもフィードバックされ、卒業後の就職先としてめざすことが可能です。

滋賀大学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター >>>

Data Science and AI Innovation Research Promotion Center, Shiga University

産 官 学 連 携 (一部抜粋)

金融系

- あいおいニッセイ同和損害保険 (株) > Pickup
- (株) SMBC信託銀行
- SMBC日興証券 (株)
- (株) 大垣共立銀行
- (株) 関西みらい銀行
- (株) 京都銀行
- (株) 滋賀銀行
- 滋賀中央信用金庫
- 第一生命ホールディングス (株)
- 東京海上日動火災保険 (株)
- トヨタファイナンス (株)
- (株) 日本政策金融公庫
- (株) 三井住友フィナンシャルグループ

情報通信・サービス系

- 市川甚商事 (株)
- 伊藤忠テクノソリューションズ (株)
- (株) インテージホールディングス
- インフィック (株)
- エイチ・ツーオーリテイリング (株)
- (株) エクスプラス
- SGシステム (株)
- (株) NXワンビシアークアイズ
- NTTコミュニケーションズ (株)
- (株) NTTデータグループ
- (株) NTTドコモ
- エヌビディア合同会社
- オムロンソーシアルソリューションズ (株)
- (株) キントー
- (株) クレオ
- (株) シーエーシー
- (株) 滋賀レイクスターズ
- (株) 新日本科学PPD
- (株) SCREENアドバンスシステムソリューションズ
- (株) セゾンテクノロジー
- SOMPOリスクマネジメント (株)
- (株) ダイセル
- (株) 大丸松坂屋百貨店
- (株) 帝国データバンク > Pickup
- ディアレッジ (株)
- (株) Terakoya.AI
- (株) TOAI
- 西日本高速道路エンジニアリング関西 (株)
- 日鉄テックエンジ (株)
- 日本アイ・ビー・エム (株)
- (株) 日本総合研究所
- 日本ソフト開発 (株)
- (株) 野村総合研究所
- (株) パルコ
- ビーウィズ (株)
- (株) PKUTECH
- PwC Japan有限責任監査法人
- (株) 日吉
- 富士通 (株)
- (株) 平和堂
- (株) マイナビ
- マギー (株)

- (株) マクロミル
- 三井物産 (株)
- 合同会社 mitei
- ミラカン合同会社
- (株) 読売新聞東京本社
- (株) ワッツ

製造・インフラ系

- (株) アイシン
- (株) アイセロ
- (株) アシックス
- (株) イシダ
- 石原ケミカル (株)
- ウシオ電機 (株)
- エーザイ (株)
- 江崎グリコ (株)
- 大阪ガス (株)
- カナデビア (株)
- カネテツデリカフーズ (株)
- グローリー (株)
- (株) 神戸製鋼所
- (株) サカイ引越センター
- サカタインクス (株)
- 佐藤工業 (株)
- (株) SUMCO
- (株) 神鋼環境ソリューション
- JX金属 (株)
- (株) SCREENセミコンダクターソリューションズ
- 第一工業製薬 (株)
- ダイキン工業 (株)
- ダイハツ工業 (株)
- タキイ種苗 (株)
- 田辺三菱製薬 (株)
- (株) デンソー
- 東海旅客鉄道 (株)
- 東京ガス (株)
- (株) 東芝
- 東洋システム (株)
- 東レエンジニアリング (株)
- TOTO (株)
- トヨタ自動車 (株) > Pickup
- トヨタ自動車九州 (株)
- 西日本旅客鉄道 (株)
- 日光水産 (株)
- 日東電工 (株)
- NISSHA (株)
- 日本電気硝子 (株)
- 日本電気 (株) (NEC)
- 能勢鋼材 (株)
- (株) 長谷コーポレーション
- パナソニックオートモーティブシステムズ (株)
- パナソニック (株) 空質空調社
- 阪神電気鉄道 (株)
- (株) 日立建機ティエラ
- 日立建機 (株)
- (株) 日立製作所
- (株) 日立ハイテク
- 日野自動車 (株)
- フジテック (株)

- ブラザー工業 (株)
- (株) 堀場製作所
- 三菱重工業 (株)
- 村田機械 (株)
- (株) 村田製作所
- (株) メタルアート
- (株) メタルワン

国・政府研究機関

- 関東信越国税局
- 国立教育政策研究所
- 総務省統計局
- 総務省統計局統計データ活用センター
- 総務省統計研究研修所
- 情報・システム研究機構 統計数理研究所
- (独) 統計センター
- 理化学研究所革新知能統合研究センター

自治体等

- 滋賀県
- 京都府
- 大阪府
- 三重県
- 和歌山県
- 大津市
- 長浜市
- 彦根市 > Pickup
- 野洲市
- 竜王町
- 尼崎市
- 大妻女子大学
- 国立音楽大学
- 膳所高校
- 虎姫高校
- 彦根東高校
- 観音寺第一高校
- 武庫川東女子大学附属中学校・高等学校
- 姫路西高校
- 松江南高校
- 若狭高校
- クラーク記念国際高校

その他の団体

- (独) 国際協力機構 (JICA)
- 滋賀経済同友会
- 滋賀県商工会連合会
- (一社) サイバースマートシティ創造協議会
- (一社) データサイエンティスト協会
- (公社) 日本医療ソーシャルワーカー協会
- 彦根商工会議所
- 真宗大谷派
- St. Jude Children's Research Hospital

※ 2025年3月現在 (連携当時の企業名)

COLLABORATION PROJECTS



地域課題の解決に データサイエンスの力を。

滋賀県内外の自治体と協定を結び、地域課題の解決に貢献しています。
中でも、地元彦根市との連携事業では、人口増減の動向の要因および
他自治体との比較等の詳細な分析を行い、エビデンスに基づいて、移
住・定住の観点から人口減少対策を提案しました。産業構造、就業状況、
通勤状況などの地域の特徴に根差した分析を行っています。また、滋
賀県における男女共同参画社会づくりに向けた県民意識調査の調査
票設計や結果分析について、学術指導を行いました。これらの研究分
析を通じて得た知見を、公的統計データを活用したPBL演習にも活か
しています。

トヨタグループとの 「データサイエンス実践道場」



ビッグデータ分析の専門家を育成する 研修プログラムを実施。

滋賀大学とトヨタ自動車株式会社は、トヨタグループのエンジニアを
ビッグデータ分析の専門家として育成するため、2017年に研修プログ
ラムを開始、2023年度からは「データサイエンス実践道場」として継続
しています。プログラムでは、本学教員とトヨタグループ内の研修経験
者が指導し、修了生が次年度以降の指導役となる体制を構築。コロナ禍
にオンライン指導に切り替えたことで指導規模が拡がり、2023年度に
は約250人を指導しました。道場は毎年5月から翌年3月まで行われ、
優秀者には学長賞が授与されています。2024年度からは初回のみオン
ラインと対面のハイブリッド形式で実施しています。



データ加工技術についての 教材を共同開発。

2019年に「Data Engineering and Machine Learning Center
(DEMLセンター)」を設定し、株式会社帝国データバンクが保有する
企業ビッグデータの解析を通じて、アフターコロナにおける倒産件数の
予測レポートの公開や金融経済・地域経済に関する学術発表を行って
います。教育活動では、2024年に帝国データバンクと滋賀大学が連携し
て開発した動画教材「データサイエンスの必須スキル! データ研磨入門
～大学生のためのデータサイエンスシリーズ～」を開講しました。本講
座ではデータを分析が可能な形式にするための前処理である「データ
研磨」に着目し、より実践的なデータ利用の習得を促進します。

MS&AD あいおいニッセイ同和損保



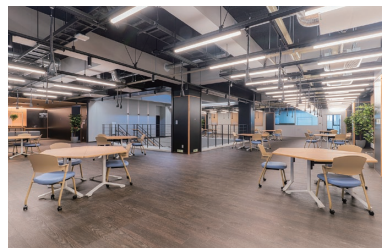
ビッグデータ専門研究拠点を開設し、 研究を推進。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社と滋賀大学は、2017年に
ビッグデータ専門研究拠点「日本セーフティンサイエティ研究センター
(JSSRC)」を設立しました。交通事故防止や安全性向上を目的に、あ
いおいニッセイ同和損害保険株式会社が保有する自動車事故関連情
報などのビッグデータをはじめとした国内外の資料を収集し、データ分
析や調査研究を推進し、事故要因を突き止めて事故防止などに役立
てています。このビッグデータを活用した研究において、2024年には
国際学会の発表で学生が賞を獲得するなど、実データによる実践的な
研究を通じたデータサイエンティストの育成を進めています。

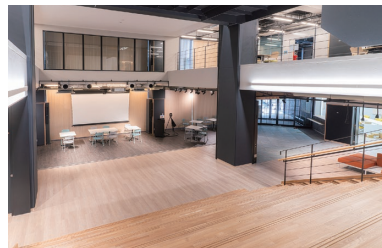


2025年完成 インシアティブ棟

共同研究の拡充に伴う貸出用企業ラボスペースを数多く設置するほか、「企業×企業との融合」を仕掛けるプロジェクトラボや学生との自由な対話ができる空間なども随所に設置し、イノベーションを起こすトリガーとなる「企業×教員×学生の融合」が実現可能な空間を備えています。



3階のコミュニケーションエリア



1階の未来創生スクエア

充実の学習環境



地域連携教育推進センター

企業セミナーの開催や地域活動ボランティアの紹介など、学生が自分の関心に応じた課外活動を見つけるためのサポートを行っています。



大学生協Caffe LAGUNA

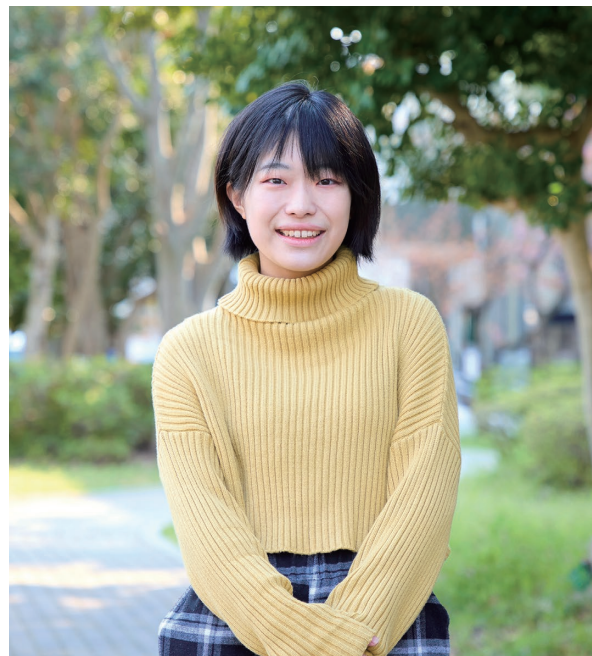
彦根キャンパスには、大学生協が運営している購買と、カフェテリア形式の食堂があります。カフェテリアでは出来立てのトーストや季節限定スイーツがあり、友人と楽しく過ごすことができます。



DSラーニング・commons

自習スペースやミーティングなどに利用することができるスペースで、学生の学びをサポートしています。データサイエンスに関する参考図書も多数揃えており、学生たちは積極的に利用しています。

Campus Life



データ分析の経験を積むために、 コンペティションに参加しています。

石坂 綾音さん 3年 札幌南高校(北海道)

データサイエンスの理論や考え方を中心に学ぶ中で、2年次はデータサイエンスの体系的な理解をより深め、データサイエンスによる価値創造に焦点を置いた勉強を積極的に行いました。3年次からは考えを形にするために、プログラミング言語や機械学習の知識の習得、分析に必要なデータ収集の過程が学べる「社会調査法」の履修を考えています。履修に備えて、自主的にコンペティションに参加して、データ収集に必要な視点を養っています。

off time

所属している卓上ゲーム研究会は、この先も長く続く研究会になるよう、運営を行っています。データ分析の経験を積むために個人的に参加しているコンペティションやハッカソンでは、社会で通用するコミュニケーション力を身につけることに注力しています。



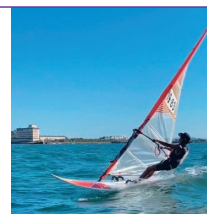
学びを積み重ね、琵琶湖での部活動にも 全力で取り組んでいます。

山中 翼さん 4年 大手前高松高校(香川県)

1年次で学んだデータサイエンスの基礎をもとに、2年次では実践的な解析や処理の方法などを、さまざまなプログラミング言語を用いて学びました。中でも印象に残っている科目は「多変量解析入門」。各手法がどのようなデータに用いられ、どのような結果をもたらすのかを理解し、データに潜む特徴を自身で探し出す力を習得できました。3年次の「社会調査実践演習」では企業から依頼されたアンケート調査について、調査を組み、報告をするという実践的な経験を積むことができました。

off time

練習場所である琵琶湖が近く、大学から新しいスポーツを始めたいという理由からウィンドサーフィン部に入部し、今はキャプテンを務めています。全国の異なる大学の人と、全国各地の海上で練習することも日常茶飯事。一生の仲間と切磋琢磨しています。



【2年次秋学期】

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1			データサイエンス 応用演習		
2			統計活用 演習B		ソフトウェア設計
3	生成AIの 理論と活用				データ研磨
4	品質管理	データベース	言語と文化		プログラミング4
5	AI・機械学習 入門	時系列解析 入門			プログラミング4 演習
6					
7					

【3年次春学期】

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	国際経済論Ⅰ		社会分析論		
2	ビジネス 価値創造論	情報 セキュリティ	社会分析演習		
3	情報 ネットワーク	データサイエンス 実践価値創造 演習Ⅰ	統計数学		
4			人間と経済		回帰分析
5		社会調査 実践演習Ⅰ			
6					
7		社会システム 原論Ⅱ			

データサイエンティストとして企業から大きな期待を受け、第5期生が卒業。

2021年に初の卒業生を送り出し、その後、データサイエンスのニーズが高まる中、多数の企業連携やインターンシップで養った実践力を活かして内定を勝ち取っています。多くの卒業生が情報産業や製造業、金融業といったさまざまな業界で活躍中です。

主な就職・進学先

【情報産業(通信、IT、コンサルティング、メディア)】
アクセンチュア(株)、(株)朝日新聞社、(株)インテージ、(株)NTTドコモ、(株)大塚商会、(株)カプコン、(株)サイバーエージェント、Sky(株)、(株)大和総研、(株)True Data、(株)トヨタシステムズ、日本IBM(株)、(株)日本経済新聞社、パナソニックインフォメーションシステムズ(株)、(株)日立ソリューションズ

【製造業】
(株)IHI、(株)アイシン、(株)アドヴィックス、(株)イシダ、石原ケミカル(株)、オムロン(株)、花王(株)、関西電力(株)、京セラ(株)、(株)SCREENホールディングス、住友金属鉱山(株)、セイコーエプソン(株)、ダイハツ工業(株)、中部電力パワーグリッド(株)、(株)デンソーテン、東京エレクトロン(株)、トヨタ自動車(株)、(株)豊田自動織機、日亜化学工業(株)、日清食品ホールディングス(株)、日東電工(株)、日本電気(株)、任天堂(株)、パナソニック(株)、日立建機(株)、(株)日立製作所、日野自動車(株)、富士通(株)、富士電機(株)、(株)プリチストン、(株)村田製作所、ヤマハ発動機(株)、ヤンマーホールディングス(株)

【流通・小売業】
岩谷産業(株)、近鉄グループホールディングス(株)、東急(株)、南海電気鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)ニトリホールディングス、日本航空(株)、(株)平和堂、三菱倉庫(株)、(株)ローソン

【インフラ業】
佐藤工業(株)、西日本高速道路(株)

【金融・保険業】
(株)SMBC信託銀行、(株)SBI新生銀行、(株)京都銀行、(株)滋賀銀行、(株)三井住友銀行、三井住友信託銀行(株)、(株)三菱UFJ銀行、トヨタファイナンス(株)、三井住友カード(株)、あいおいニッセイ同和損害保険(株)、住友生命保険(相)、第一生命保険(株)、大同生命保険(株)、明治安田生命保険(相)

【自治体等】
京都市役所、滋賀県庁、防衛省航空幕僚監部

【大学院進学】
大阪大学大学院 基礎工学研究科、滋賀大学大学院 データサイエンス研究科

大学院 | データサイエンス研究科

2019年4月開設のデータサイエンス研究科・博士前期課程では、ベンチャーを含む中小企業や大企業・政府を問わず、各分野で求められているレベルのデータサイエンティスト育成をめざします。企業などとの共同研究に参加することも可能で、課題の発見からデータ収集・分析を行い、その結果に基づく業務改善提案や新たな知見の発見など、データから価値を創造するための一連の過程を実践します。2020年4月に開設された同研究科・博士後期課程では、データサイエンスに関する新たな基盤技術を生み出し、新たな価値創造の場を開拓できる高度職業人や研究者を育成します。



さまざまな分野を幅広く学び、多様な学生と交流できる環境が魅力。

田原 弥さん
データサイエンス研究科 博士前期課程1年
滋賀大学データサイエンス学部 卒業

課題の把握から実際の分析、アウトプットといった一連のプロセスを経験することで、社会でデータを活用するためのノウハウの習得をめざしています。さまざまな分野の教員がいるため幅広い学びができること、独自の奨学制度によって経済的な負担を軽減できるなど、学ぶ環境が整っていることが魅力です。社会人学生も多いため、交流の機会があることも貴重だと思います。

Career

誰もが運用できるAIの実装が目標

ダイハツ工業株式会社で、製造ラインでのAIの実装などを担当する饗庭拓真さん(2022年3月卒業)。学生時代は河本薫先生のゼミで企業連携型PBL(課題解決型学習)に取り組み、6つの企業のビジネス課題を解決するためにデータ分析を実施。「考察・分析結果を、継続的に企業の方からフィードバックいただけたことで、実社会に必要なビジネススキルの習得につながりました」と語ります。業務での目標は、誰もが運用できるAIの導入とAIキーマンの育成。「最終的には現場担当者自らが、より使いやすく高精度なAIを実装できるようにサポートしていきたいです」



■専任教員

 市川 治 教授 学部長 音声データ／ テキストデータ／深層学習／ マルチチャネル信号処理	 青木 敏 教授 離散データ解析／ 実験計画法／ グレブナー基底	 青木 高明 准教授 数値地理モデリング／ ネットワーク科学	 飯山 将晃 教授 画像処理／画像認識／ 深層学習／ コンピュータビジョン
 石川 祐実 講師 健康経済学／ 開発経済学	 和泉 志津恵 教授 統計科学／統計教育	 今井 貴史 講師 非線形力学系／ 非線形振動／ 位相縮約	 岩山 幸治 准教授 非線形時系列解析／ バイオイノフォマティクス
 梅津 高朗 准教授 高度交通システム	 江崎 剛史 准教授 ケモインフォマティクス／ バイオイノフォマティクス／ in silico創薬	 太田 智美 講師 メディアデザイン／ ロボット／音楽	 大塚 道子 准教授 気象観測／ 数値天気予報
 奥村 太一 准教授 心理統計学／テスト理論	 川井 明 准教授 情報科学(ネットワーク)	 河本 薫 教授 データ科学／ ビジネスアナリティクス	 来嶋 秀治 教授 数理工学・ オペレーションズリサーチ
 佐藤 健一 教授 統計的データ解析／ 回帰分析／変化係数	 佐藤 智和 教授 コンピュータビジョン／ 仮想化現実／複合現実	 佐藤 正昭 教授 統計調査／ 社会・経済統計	 島田 貴仁 教授 エビデンスに基づく 政策形成(犯罪予防)／ ナッジ／ 実務家と研究者の協働
 清水 昌平 教授 (大学院担当) 統計科学／機械学習／ 因果探索	 伊達 平和 准教授 社会調査	 田中 琢真 教授 理論神経科学	 チャン デイン トゥアン 准教授 機械学習／画像処理／ コンピュータビジョン／ ロボットビジョン
 寺口 俊介 教授 素粒子論／宇宙論／ 機械学習／ バイオイノフォマティクス	 南條 浩輝 教授 自然言語処理／ 音声言語情報処理／ 深層学習／マルチモーダル	 姫野 哲人 准教授 多変量解析／ 高次元データ解析	 笛田 薫 教授 統計的モデリング
 藤井 孝之 准教授 確率過程／変化点解析	 堀 兼大朗 講師 社会学／社会調査／ 障がい者差別	 松井 秀俊 教授 統計科学	 村松 千左子 教授 画像処理／ 医用画像解析／ コンピュータ支援診断
 森岡 博史 准教授 表現学習／データ駆動／ 非線形独立成分分析	 山口 崇幸 講師 応用数学／力学系／ 数値計算	 義久 智樹 教授 IoT／ストリームデータ／ サイバーフィジカルシステム／ メタバース	

■データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター教員

深谷 良治 教授	センター長 戦略的意思決定／プロジェクト管理／新規事業開発	池之上 辰義 准教授	臨床研究／ビッグデータ解析
岩崎 悟 講師	アトラクタ構成／逆問題／機械学習	榎本 大悟 講師	交通シミュレーション／スマートシティ／データサイエンス
小野島 隆之 講師	認知神経科学／非線形振動子／時系列解析／ リアルタイム信号処理	小松 尚登 助教	統計物理学／非線形科学／平均場理論／ マルコフ連鎖モンテカルロ法
佐野 和子 助教	社会階層／職業キャリア／ジェンダー	高柳 昌芳 准教授	分子シミュレーション／ビッグデータ処理
田中 克幸 助教	Economic Data Science／Information Retrieval／ Image Classification	千代延 未帆 助教	数値解析／特異値分解／情報処理
土田 旭 助教	写像の特異点論／サブリーマン幾何学／幾何学的制御論	中川 雅史 助教	システム工学／信頼性工学
西尾 治幾 講師	分子生態学／時系列解析／エビゲノミクス	長谷川 蒼 助教	代数トポロジー／カンドル／カンドルホモロジー
ファム テトン 准教授	複雑ネットワーク／統計科学	松島 裕康 准教授	社会シミュレーション／機械学習／進化計算
松原 悠 助教	災害科学／社会調査／質的研究／アクションリサーチ	三井 真吾 講師	半導体検出器／SOIピクセル検出器／素粒子実験／ X線残留応力測定

※このほかさまざまな領域の実務家を含めた多数の客員教員がいます。